

十人十色の育て方

人工頭脳が人に変わって仕事をするようになる時代、これからは、基盤力【知識、体力、言葉、規範（約束を守る、やるべきことをやる）】ばかりでなく、思考力が大切になってきます。高濱さんは、頭のよさの研究をしてきて、頭のよさとは、人の見えないものが見える力だと言われます。例えば、物事の本質、要点、相手の言いたいこと、アイデアなどです。これを非認知能力といいます。

では、この力は、どうやってつけばよいのでしょうか。

まず、小さい頃に外遊びをさせてあげましょう。

「あそこに秘密基地を作りたいな。そこには、これとこれを持って行って、周りから見られないように、この板で隠すようにしよう。この秘密基地のことを教えるのは、〇〇ちゃんだけ。二人だけの秘密基地にするんだ。」

このように、どんどん発想は広がっていきます。これは危ないからやってはいけない、これはだめと、何でも禁止すると、子どもの自由な発想ができなくなります。何かに没頭して、延々と外遊びをしている状況が理想です。このような遊びを繰り返すことによって、頭の中に補助線が思い浮かぶようになります。（例えば、コンセプトはこうします。そのためには、3つのことが必要になります。まず、これを準備して、その上でこれをして・・・と、思考がつながっていくようになります。）

次に、様々な経験をさせてあげることです。小さい頃経験した総量が、将来に生きてきます。画像で見るだけでなく、五感（視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚）を使って、実際に体験することが大切です。

このような、基盤力に加えて、思考力をもっている人は、これからの時代に大いに活躍する大人になります。でも、他にも将来成功する例があります。基盤力の上に、人間力をもっている人、基盤力の上にまた基盤力があるくらい目の前のことをきっちりやりきっていく人、他のことはからっきしできないが、ある能力だけが突出して高く、その能力を活かしていける人等、様々なタイプがあります。全ての子が優れた能力をもっていなければいけないかというと、そうでなくても社会の中で活躍していける人になります。

子育てにお母さんは、正解を求めようとしますが、正解はいりません。これからの時代は多様です。十人十色の育て方を目指せばよいのです。大切なのは、我が子はどのようなタイプなのかを見極め、その子に合った育て方をしてあげることです。